

奈良県川上村における 取り組みについて

一般社団法人かわかみらいふ
事務局長 三宅 正記 様

● 川上村について

一般社団法人かわかみらいふの三宅と申します。今日はよろしくお願いたします。まずは奈良県川上村という村の紹介からさせていただきます。川上村は奈良県の南東部に位置しております。面積は非常に大きいのですが、ほぼ 97%山林ということで、その中に 26 の集落が点在しております。先ほどの沼田町さんとは全く真逆で、一つ一つ小さな集落が村のあちこちにあります。元々は林業で栄えた村ですので、山の中腹に集落があるというような形の村になっております。人口も 1,300 人で高齢化率 57.4% というような過疎の村です。元々は 8,000 人以上いた村なのですが、村の中心地がダム湖に沈んでしまい、それによる転出というのも大きく、現在は 1,300 人程度の村となっております。

これは 2018 年に発表された人口の推計のランキングですが、川上村が第一位となっており、2045 年にはもはや人口が 270 人になるというような発表がありました。他にも奈良県他の 5 つの村も入っています。やはり、北海道の市町村もランクインされているという状況ではありますけれども、その中でも川上村は人口減少が大きいという発表がありました。

人口が減る、村がなくなるというのは、

ご近所のおじさんの店がなくなるとか、おばちゃんの料理がなくなるとかということと我々も捉えていまして、続いている伝統など、そういったものがなくなってしまうということです。それをなんとか防ぎたいということで、今住んでいる村民さんが住み続けられるようにという目的で、我々かわかみらいふというのを設立しています。

人口減少の要因の中では、進学とか就職で転出される方がもちろん多いのですが、それ以上にこの村で多かったのが、もうすでに村外にでられている子供たち、息子さんや娘さんたちから、「もうお父ちゃん、こっちで住もうよ」と、「お母ちゃん、こっちで一緒に」という呼び寄せによる転出人口減少が非常に多くありました。そのような部分で、やはり高齢の方でも、この村で住み続けられるにはどうしたらよいか。お買い物支援など、そういった形でなんとか住み続けられる仕組みを作りたいということで、役場の若手職員を中心に計画をして、「一般社団法人かわかみらいふ」が組織されていきました。

ここで、いろいろな取材を受けた中で、朝日放送さんが作成した VTR を若干見ていただきます。

【VTR】

<https://www.youtube.com/watch?v=wOslvmttdMY4>

VTR にも村の紹介と移動スーパーが少し出ていました。これは 2019 年当時なのですが、15 歳以下の人口も 59 人

から 78 人と増えました。0 歳から 6 歳も 24 人から 37 人に増えているということで本当に村の取り組みの成果が出てきています。

● かわかみらいふの立ち上げ

我々「かわかみらいふ」の取り組みも、ここに貢献できているのではないかという結果です。ここから「かわかみらいふ」の事業を説明させていただきます。あらためまして、「一般社団法人かわかみらいふ」は、村の職員中心に当初は作った組織ではありますが、理事長は村民の代表の方になっていただいています。副理事長に村長、理事も村の役員の方です。商工会の会長さんですとか、副会長さん、福祉協議会の会長さんとプラス本当に民間の企業さん、この川上村の取り組みに共感してくださっている方です。ならコープの専務理事や、吉野ストアの社長さん、燃料の丸井商会さんという燃料供給いただいている会社の専務が理事としてこの会社に一緒に入っていただいています。顧問には奈良県の方と、あと金融機関で南都銀行の支店長が顧問という形でして、本当に村をあげての取り組みという形の会社になっております。

主な事業としては、先ほど VTR にもありましたが移動スーパーと、ならコープさんの宅配物を我々が最後にお客様のところまで届ける部分、宅配事業というところで担っております。また、村内に昔は 3 軒ほどあったガソリンスタンドが、現在、唯一 1 軒だけ残っていましたが、そこが廃業したいという申し出がありまして、

それでは困ると、唯一のガソリンスタンドでしたので、それを我々が引き継いで経営しているところなんです。

我々の事業があることによって、村内の雇用の場が生まれ、地域内経済循環にも寄与できているのではないかと考えているところなんです。取り組みとしては、住民との接点があるやり方、事業の進め方でコミュニティ作りというのを一番の目的に運営していております。

● 移動スーパーと宅配について

大きな取り組みがこの「買い物」「宅配」「ガソリンスタンド」ではあるのですが、この移動スーパーの仕組みとしては、まず先ほどの理事にもなっております吉野ストアという地元のスーパーと連携しております。吉野ストアから商品を積み込みますけれども、うちのほうでは仕入れはしません。仕入れてしまうと、どうしても継続できない、移動スーパーの利益だけでは存続できないということで、まず商品のほうは店から積み込んで、そのまま仕入れをせずに売れ残りは店に戻すというスタイルです。それで売れた分の内から手数料をいただくというような流れで運営しております。

宅配のほうもそうです。ならコープさんのセンターに我々が取りにいて、それを最後お客様のところまでは我々のほうが届けるというような仕組みになっております。車両も人もうちが用意して最後の販売を我々がするというので、企業さんのほうにもメリットがあります。村民さんも我々が決め細やかにケアしま

すので、村民さんにもメリットがあります。我々もそうして雇用が生まれるというメリットもあるというところで、そういった形の運営をしていっております。

我々の目的というのが、もちろん買い物支援というのは大事なのですが、その買い物支援と同時に、村民さんの見守りですとか、そういったところを重視しています。写真にもありますが、これが日報です。スタッフが毎日かかさず、本当に些細なこと「どこのおばあちゃんからコーヒーいただきました」ですとか、そういったコミュニティのことももちろん「今日おばあちゃんがしんどそうだったので看護師さんと連携してちょっと対応しました」などが日報になっています。本当に我々村内全域回っていますので、いろいろな情報が入ってきます。それを役場ですとか、あとは診療所、社会福祉協議会のヘルパーさん、その皆さんと連携し、情報共有して地域の見守りという機能も持っています。本当に我々は最前線で村民さんに関わりあう立場にありますので、村内の方々をつなぐ役割を担っているという形です。

ならコープ、生協さんが作っていただいている VTR があるので、もう一本を少々見ていただきたいです。先ほどの VTR と若干かぶる部分もあると思いますがご覧ください。

【VTR】

<https://www.youtube.com/watch?v=fAK9cTNRyik>

見ていただきました。本当に村民さん

と関わりながら取り組みを進めています。移動スーパーもそうですし、宅配もそうですし、もちろんガソリンスタンドもおかげさまで非常に経営のほうは順調にしております。やはり、そのどれか一つ欠けても上手くいってなかったのではないかと感じています。

● 損得勘定は地域全体で考える

「かわかみらいふ」というものが、村民さんのために移動スーパーを行ったり、ガソリンスタンドをやったりというのを、村民さんが理解して受け入れてくださっています。出かける時には「かわかみらいふ」のガソリンスタンドに入れて出ようとか、買い物行っても移動スーパー明日くるから、これは買わずに帰るわという形で「かわかみらいふ」を継続して利用いただく取り組みが必要です。自分がもう車に乗れなくなった時に「かわかみらいふ」が続いていって欲しいというような形で皆さんが「かわかみらいふ」をご利用しようという意識が生まれております。

移動のためのバスを走らせてほしいとか、バスをもう少し便利にしてほしいというのですけれど、実際に走らすとなかなか利用率が上がらなかつたりするなど、やはり経費がかかって継続するのは難しいのですが、買い物支援も同じです。こういった過疎地の移動スーパーで、独立で経営出来るかということと中々そうではないです。ただ、そうすることによってプラスの部分、地域全体の交流であったりとか、転出減少とか、医療費というのも含めて、地域全体で損得勘定を考えて取り組みを

進めていっているという状況になっています。本当に「かわかみらいふ」というのは村民さんに支えられているなあというのは実感しています。やはり我々「かわかみらいふ」を使おうと思って下さらなかったら、もう「かわかみらいふ」はいらないところになってきます。そこを、やはり「かわかみらいふ」にはずっとあってほしいと、ずっと続いてほしいという村民の思いに支えられて活動ができています。このような取り組みになっております。

以上です。ありがとうございました。

質問① 宅配や移動販売で、販売・お届けの方と一緒に保健師の方も訪問されているという話があったが、具体的にどのような形で行われているのか。

三宅様回答 今、移動スーパーには村の役場からの出向で看護師さんが常駐してくれています。その看護師さんが、移動スーパーと一緒に別車で同行して回っているのです。来てくれたお客さんの体調ですとかを、村民さんについての専門的な知識を持った看護師が回りますので「この間、病院でこんな薬を貰ったんや」とか相談が気軽にできるよう、そういった形で運営しています。現在は看護師プラス歯科衛生士さん、やはりお口の健康というのは大事な部分ということでその同行も始めて、非常に村民さんには喜ばれています。

質問② 事業単体では赤字だが、損得勘定は地域全体で考えるという話があったが、一方で、事業単体でどういうふうに収

支を整えていくかということも重要なポイントになると思う。現時点で移動スーパー等の運営に対し、村からの補助はあるのか。あった場合に費用のどの程度の負担があるのかイメージだけでも教えて欲しい。

三宅様回答 「移動スーパー」「宅配」「ガソリンスタンド」という、大きな3つの事業があるのですけれども、ガソリンスタンド事業は独立経営できています。やはりご利用も我々がすることによって利用率も増えましたし、独立経営が成り立っています。ただ、やはり移動スーパーと宅配事業というのは、やはり村民さんのケアを中心にやっていますので、商売というよりは見守りのほうの要素が強い活動になっています。従いまして今、村の方から人件費等のサポートは受けています。どうしても年間、金額的には大きなサポートは受けているのですけれども、それでもやはり福祉的な部分で、それ以上にプラスの部分を考えていただいて運営していっているというような形です。

「小さな取組み」
の評価を変えたい
～ 今ある暮らしの維持 ～



かわかみらいふ
一般社団法人かわかみらいふ 2021.3/19



1

#1 奈良県川上村
(村の紹介)

2

奈良県川上村の概要

◆位置・地形

- ・奈良県の南東部に位置
- ・面積 269.26km² (97%が山林)
- ・26の集落が点在
- ・吉野川(紀の川)の
最源流に位置



◆人口・世帯

- ・1,313人・680世帯
- ・高齢化率 57.4%



3

・2018年「2045年 将来推計人口ランキング」全国 1位

人口減少率が高い上位10市町村

市町村名	2015年(人)	2045年(人)	減少率(%)
奈良県川上村	1313	270	79.4
北海道歌志内市	3585	813	77.3
群馬県南牧村	1979	455	77.0
奈良県上北山村	512	122	76.2
奈良県東吉野村	1745	440	74.8
北海道夕張市	8843	2253	74.5
北海道松前町	7337	1993	72.8
群馬県神流町	1954	532	72.8
奈良県野迫川村	449	123	72.6
奈良県黒滝村	660	181	72.6

ベスト10に
奈良県が5つも...

4

地域(自治体)が無くなる!?・・・いや違う

無くなってしまうのは・・・。

商店 や 事業所、 そう・・・

誇れる **技術** や **伝統**



お店の **味** や **雰囲気**

地域の **人の魅力**

5

「 **今ある暮らしの維持** 」

「 **健康で安心な毎日** 」



2016.7 一般社団法人かわかみらいふ 設立
付加価値のある暮らし を提供

6

住民との協働が結果として、成果として…、

15歳以下

2015年は59人 → 2019年 **78人!**

さらに!

0～6歳以下

2015年は24人 → 2019年 **37人!**

7

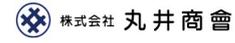
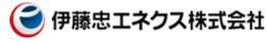
#2 かわかみらいふ (事業の紹介)

8

★かわかみらいふの取組み★ ～暮らし続けられる村づくり～

「一般社団法人かわかみらいふ」体制図

- ・ 理事長 村民 ・ 副理事長 川上村長
- ・ 理事 商工会長、区長会長、社会福祉協議会長
 ならコープ専務理事、吉野ストア社長、丸井商會専務 ←村外の民間企業
- ・ 顧問 **奈良県南部東部振興監、南都銀行支店長** ←県庁、金融機関



事業目的

●産官金労福+村民の「一般社団法人かわかみらいふ」を設立

「移動スーパー事業」・「宅配事業」で買い物利便を確保し、廃業予定だった村唯一の

「ガソリンスタンド」も承継し、**新たな雇用の場**と、**地域内経済循環**にも寄与。

これらは、あくまでツール（手段）であり、本来の目的は

住民との接点の機会をつくる、コミュニティづくり

9

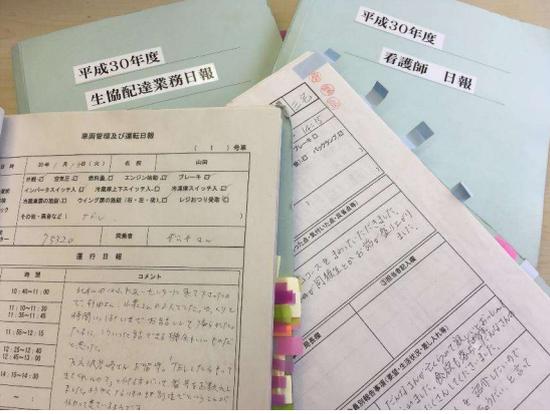
買い物

宅配

サービス
ステーション

10



見守り・
声かけ

健康・福祉




11

「地域との関わり・意識の醸成」




地域で暮らしに
関わる仕事がある

↓

雇用がうまれる
役割がある

↓

村内でお金が回る

↓

コミュニティが
うまれる

↓

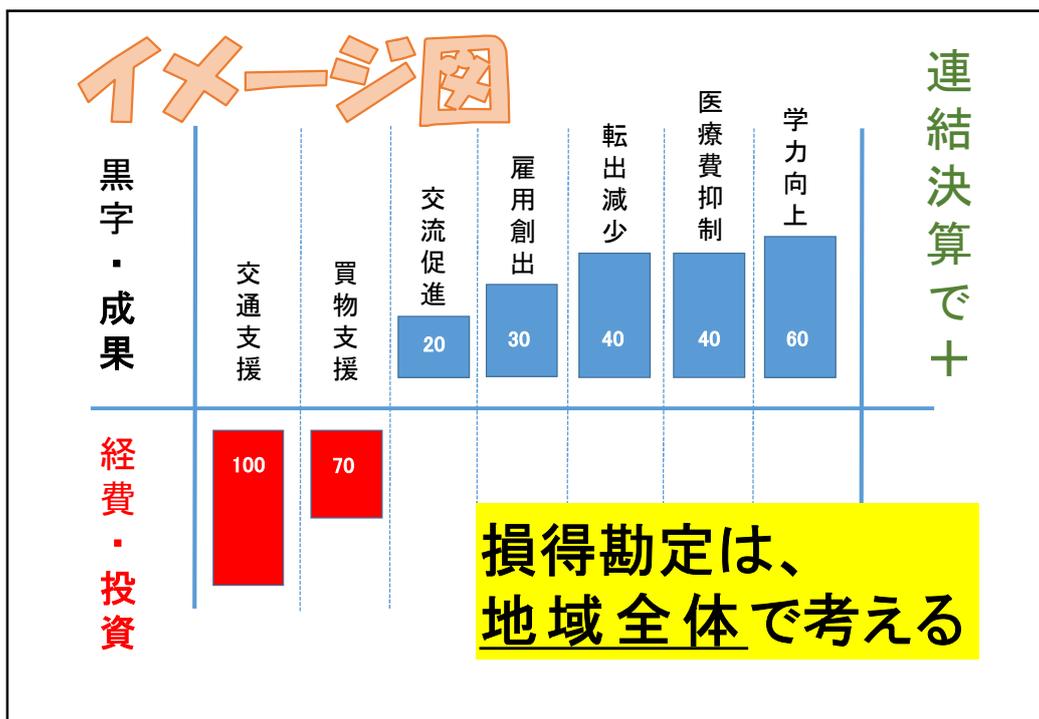
関係人口がふえる

↓

事業所も
元気になる




12



13



14